

2/21・22 海藻の肥料化の先進地を訪ねる(中海:島根県・鳥取県)

○島根県松江市:NPO法人認定NPO法人自然再生センター

○鳥取県境港市:NPO法人未来守りネットワーク

浜名湖と同じ汽水湖である「中海」では、水質改善・環境保全のために「海藻」を回収して農業の肥料を開発し、野菜の生産や肥料の販売を行っている先進地を訪問しました。島根県・鳥取県にまたがる中海は、国営干拓事業(途中で事業中止)で淡水化のための堤防建設や埋立て事業などにより湖水が循環せず、水質が悪化し、さらにかつて畑の肥料としていた海藻を使わなくなり、その影響等々もあってアサリも育たない湖になってしまいました。

島根県と鳥取県が3年かけて、NPO法人に委託して行政、大学、試験研究機関、企業、農業者などが協働して海藻を回収し、肥料にして農業として循環するビジネス展開をするための試みを実施しています。浜名湖が目指したい活動モデル・ビジネスモデルです。島根県では、肥料にして販売を開始(ネット通販含む)。できた米、トマト、小松菜、白菜など野菜の販売をしています。



家庭菜園用肥料



農業用の肥料



中海産海藻肥料の農業セミナーに参加

3/2 はまなご環境ネットワークの総会が開かれました

■25年度の事業計画 ※詳細は25年度に入ってから詰めます。

- ① 一般県民向け： 浜名湖エコキッズ体験塾(猪鼻湖などを舞台に展開予定)開催
情報発信事業(ホームページ、ブログ、広報誌、メール配信など)
- ② 活動団体向け： 浜名湖エコワークショップの開催(勉強会、視察、意見交換)
活動団体のマッチング交流会(仮称)の開催

【事務局からのお知らせ】

はまなご環境ネットワークでは、活動団体の仲間を随時受付しています。ホームページから登録申請書をダウンロードしていただくか、あるいは事務局までお問い合わせください。

はまなご環境ネットワーク 広報誌

発行/はまなご環境ネットワーク

第18号

発行日/平成25年3月25日

事務局/NPO法人地域づくりサポートネット

浜松市中区常盤町133-13 TEL053-455-0220

Eメール info@shizuoka-t.net

はまなご環境通信

浜名湖の水草(アマモ・アオサ)を活用する試み(野菜収穫編)

浜名湖の湖岸に打ち上げられた海草(アマモ)を回収して、浜松市西区村櫛町の遊休農地の肥料として利用する実験の締めくくりとして、2月3日に野菜の収穫を行いました。

昨年9月8日に植えた大根の種が育ち、それをみんなで引き抜きました。今回は、アマモ以外の堆肥は入れませんでした。大きさはまちまちでしたが、なんとか育ちました。



アマモを活用した野菜づくり実験での収穫作業



お子さんも参加して大根を収穫

収穫した野菜は参加者が持って帰り、家庭の食卓でおでん、ぶり大根、サラダ、漬物などで食されました。味も上々の出来栄でした。このような活動をもっと多くの仲間で行い、広げていきたいものです。

3/2(土)浜名湖のアマモ再利用「意見交換会」(浜名湖エコワークショップ)

平成24年度の浜名湖のアマモ再利用の実験の成果を踏まえ、市民・県民の目線で浜名湖の水草(アマモ)の再利用について考える意見交換会を開催しました。

○とき：平成25年3月2日(土)13:30~

○ところ：クリエート浜松 53会議室

■アマモ・アオサの活用のモデル的な取組報告

平成24年度の浜名湖のアマモ再利用の実験について、はまなこ環境ネットワーク事務局より報告しました。また、12月4日に行った浜名湖の現地を見よう!アマモが漂着・農地の現地見学会&意見交換会についても報告しました。

■浜名湖の水草の利用に関するリレートーク

1) 中海の「海藻」の肥料化の取組事例の紹介

○株式会社東海まちづくり研究所 山内秀彦



鳥取、島根両県にまたがる中海では、大量に発生した海藻が腐敗し、近年、水質悪化が深刻化している。そんな中、沿岸の農家やNPO法人などが、ミネラル豊富な海藻を肥料として活用し、環境再生と農産物のブランド化を図っている事例を調査したので、その結果を報告しました。

中海の方からは、浜名湖でのアマモ堆肥化は、家庭菜園から始めて、裾野を広げて普及していく方がよいとアドバイスを受けました。

ただし、アマモだけでは窒素やリン酸が不足しているので、牛糞・鶏糞もしくは油かすなどを混ぜるとよいと指導されました。

2) 浜名湖の農業とアマモについて

○静岡県農林技術研究センター 土壌環境科長 若澤秀幸氏



農業に適した土づくり・堆肥をテーマに図解入りで講義を受けました。アマモの場合は、カリウムを多く含むが、リン酸とチッソがほとんど含まれていないとのこと。

かつて、浜名湖周辺でアマモの堆肥利用が行われていた頃は、アマモだけでなくアマモ以外の植物性有機物や家畜フン等も混ぜて利用されていたため、そのバランスが保たれていたのではないかと、今後のアマモ利用に関する課題の指摘がありました。

今後、浜名湖でアマモの堆肥化に取り組む場合には、肥料など農業の知識や科学的な情報も必要になるため、県農林技術研究センターとしても可能な限り協力をしていただけるそうです。

3) 企業の取組み(お弁当屋さんの有機栽培)

○株式会社知久 総務課長 小澤 勇夫氏



株式会社知久の企業概要、事業展開について紹介があり、新たな事業展開として農業への新規参入を図ったことについて報告がされました。現在15haの土地で約40種類の野菜を栽培している。この事業を始め10年が経過し、ようやく農業が事業として成り立ってきた感があると話されました。

最近の食品業界の有機農業への関心の高さ、ニーズの高まりからも、今後のアマモを活用した有機肥料の利用拡大についても希望の持てる内容のお話でありました。

4) 「すじ青のり」の商品化に向けて

○浜名漁業協同組合理事・丸高水産 高山 義和氏



丸高水産の高山義和氏より、浜名湖産のすじ青のりの商品化についてのお話を頂きました。従来、浜名湖では海のりを生産していましたが、このたび丸高水産では川のりを出荷することになりました。川のりが生息する地域は、浜名湖でも限られた場所で、漁師しか採ることが出来ないため希少価値が高くなっています。今後、漁獲量が減少するアサリ、シラス、ウナギに代わる代替品として浜名湖産すじ青のり(川のり)の商品化を進めていく方針であると語っていました。

■意見交換会(全体ワークショップ)

テーマ 浜名湖の循環型の環境保全の取組みを考える ~アマモ・アオサを農業に活かす~

○コーディネーター：はまなこ環境ネットワーク 会長 芥川知孝

農業、漁業、観光、自然保護団体、NPO、行政などそれぞれの立場から循環型の環境保全の取組みとして、アマモ・アオサを活用していくための連携について意見を交わしました。今年度のアオサ堆肥化実験の成果や反省を踏まえ、次のステップでは、それぞれの立場で関わることが認識できました。そのために当ネットワークが呼びかけて、今年度の実験の取組みを継続していくことを確認しました。



アマモで作った大根の漬物、中海の「海藻」の三杯酢を試食しながら

